

古事記編纂1300年を迎えて

～出雲の魅力再発見・一人ひとりがおもてなし～

出雲市では平成24年の古事記編纂1300年を記念して開催された「神話博しまね」や、平成25年の出雲大社「平成の大遷宮」を契機に、出雲の魅力を再発見し、訪れる方を「おもてなし」の心でお迎えする観光振興に取り組んでいます。このコーナーでは、地域で取り組むおもてなし・まちづくりを紹介します。

今月号では、乙立地区から出雲の魅力と地域の活動をご紹介します。

立久恵峠を有する山間集落

乙立地区には、その景観が九州の邪馬溪やまけいに似ていることから「山陰の邪馬溪」とも称される立久恵峠があります。立久恵山は霊山で、かつて全国でも有名な修験道の行場として隆盛を極めた地として知られています。昭和2年に国の名勝及び天然記念物の指定を受け、昭和39年には島根県立自然公園に指定されました。



深緑の立久恵峠

春には桜、夏には深緑、秋には紅葉、冬には白雪が、立久恵峠を彩り、四季折々の景色を楽しむことができます。さらに、この一帯でしか見られない貴重な植物も自生し、薬草も豊富です。

また、地区の中心部を流れる神戸川は、清流として知られ、古くから地鮎がたくさんおり、落ち鮎を捕る漁法のひとつ「四つ手網」が盛んに行われました。今日では鮎を放流し、この漁法を維持しています。

「わかあゆの里」の再生

平成18年7月の豪雨災害で大きな被害を受けて休止していた「わかあゆの里」が、平成23年5月に新たにオープンしました。

乙立地区では、進む過疎化・高齢化や増加する耕作放棄地への対応、さらに地域活動の維持存続が課題となっています。その課題解決のためには、「わかあゆの里」の再生を起爆剤として、地域全員が関わりを持つことが大切であるとの思いから、施設を管理運営していく任意団体「乙立いやしの里」を、地域住民自らが設立しました。この思いに賛同して入会した住民は、「わかあゆの里」オープン時には約270名にもなりました。

この「乙立いやしの里」は、「わかあゆの里」を拠点として、神戸川での鮎やヤマメのつかみ取りや、陶芸教室、そば打ち体験など、乙立の資源を活用した事業を企画、実施しています。

また、農業生産グループ「乙立柚子の里」は、乙立地区で以前から生産が盛んな柚子を、ぼん酢等に加工し販売しています。

「乙立修行之りづくり協議会」の設立

平成24年5月に、「乙立いやしの里」を中心として、「乙立柚子の里」や地域住民等を構成員とする「乙立修行之りづくり協議会」が設立されました。

この協議会は、立久恵峠がかつて修験道行場であったことから「修行」と称した体験型ツアーを構築し、新しいスタイルのグリーンツーリズムにより、乙立地区をたくさんの人で賑わう観光地として再生することをめざして活動しています。

第一弾の「修行」として、柚子の収穫と調理体験が、平成24年12月9日に開催されました。

当日はまず、乙立の農家の柚子畑ではさみを使ってゆずの収穫を体験しました。柚子の枝には鋭いとげがあるため、参加者はとげと格闘しつつ、はさみを入れるとふわっと鼻をくすぐる柚子の香りに癒されながら、収穫を楽しみました。

続いて収穫した柚子を使って調理体験を

しました。ぼん酢のほか、柚子味噌を使った焼おにぎりや調味した野菜を詰めた柚釜等を、地元の方々から手順を教わりながら調理し、味わいました。最後は、「立久恵音頭」をみんなで踊り、参加者は地元の方々との交流を深めました。



おいしい柚子料理ができました

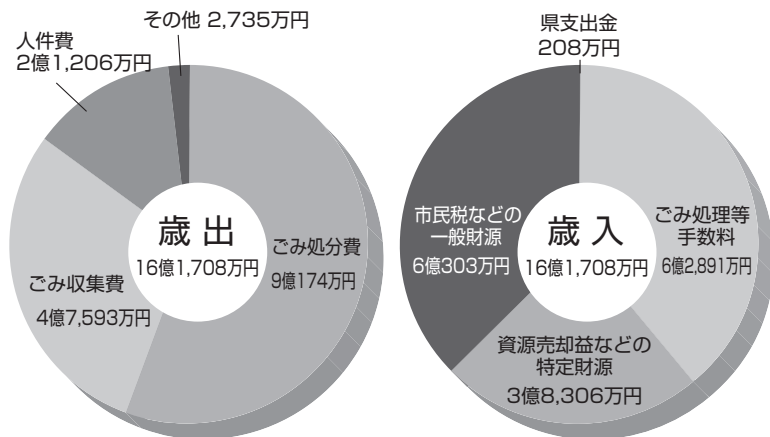
協議会では「修行」第二弾を計画しています。

おたずね／わかあゆの里 ☎0102
営業時間…9時～18時 定休日…毎週水曜日
(夏季・大型連休は無休)

みんなでゴミのダイエットを

ごみの処分にはこんなにお金がかかっています！

市内から排出されるごみを処理するためには、年間約16億1千7百万円（平成23年度実績）という多額の費用が使われています。今回はごみ処理の経費について考えてみましょう。



平成23年度ごみ処理費に関する実績
(一般廃棄物処理実態調査数値より)

平成23年度の出雲市のごみ排出量は約6万2千トンでしたので、市民一人当たりのごみ排出量は一日当たり約968グラムとなります。

上のグラフにもあるように、平成23年度のごみ処理にかかった経費は年間約16億1千7百万円で、単純計算すると1トン当たり約2万6千円、市民一人当たりになると約9千2百円かかったことになりました。これらを賄った財源のうち、皆さんからいただいたごみ袋代などのごみ処理手数料は、全体経費の約4割、市民税などの一般財源も約4割を占めます。

広報いずも8月号でもお知らせしましたが、市の可燃ごみは増加傾向にあります。ごみの量をいかに抑えていくのが、市の課題となっています。

市民の皆さんが「一人一日100グラムのゴミダイエット」を行うと、年間約6千4百トンのごみ削減をする

ことができます。

皆さんが買い物をされる際に、もう一度考えてください。「これって本当に必要なもの？」

捨てる前にも考えてください。「これって他の使い方ができるんじゃないかな？」

それでも使い道が無いものについては、捨てる前にもう一度だけ考えてください。「リサイクルできるん

じゃないかな…」

その気持ちの積み重ねが、ごみ問題解決の大きな一歩となるのです。市民一丸となって取り組みましょう。

廃食用油はリサイクルしましょう！

食用油が排水に混ざってしまうと、環境に対して大きな負荷がかかってしまいます。食用油は流し台に捨てずに、資源としてリサイクルしましょう。

市では、使用済みの食用油（植物性油に限る）をコミュニティセンターなどで回収しています。回収した廃食用油はバイオディーゼル燃料にリサイクルし、ごみ処理施設のトラック等の燃料として利用しています。

回収場所等、詳しくはホームページをご覧ください。



ガーデンシュレッダーを貸し出します！

市では、家庭で剪定された枝をごみとして出さず、粉碎（チップ化）し、土壌改良剤などに有効活用していただくよう、「粉碎機（ガーデンシュレッダー）」の貸し出しを実施しています。

ご利用された方々からは今まで処分に困っていた枝葉がリサイクルできるということで、大変好評です。

ご利用の際は、電話で申し込みが必要です。



お買物はマイバッグで！ ～レジ袋削減の取り組み状況をお知らせします～

市では、環境にやさしい都市づくりの実現をめざして、資源の節約とゴミの削減、二酸化炭素の排出削減を目的に、買い物の際にマイバッグを持参し、レジ袋をもらわない運動を展開しています。

この運動の一環として、「レジ袋削減に向けた取組に関する協定」を締結している店舗でレジ袋の無料配布を中止し、現在、12事業者30店舗が協定に参加しています。協定締結店舗の平成24年度上半期マイバッグ平均持参率は、85.4%でした。

マイバッグを持参し、レジ袋を断ることは、資源の大切さやごみ問題、地球温暖化問題を考えるきっかけになります。身近なことから環境にやさしい取組を始めてみましょう。



出雲市環境保全連合会多伎支部の海岸清掃の様子（田儀海岸）。出雲市環境保全連合会は、レジ袋有料化に取り組む8事業者からの寄附金を活用して、美化活動などに取り組んでいます。

特別事業者※1におけるレジ袋削減の取組状況（平成24年度上半期分）

特 別 事 業 者	レジ袋の 無料配布中止	マイバッグ 持参率※2
☆イオンリテール(株)（イオン出雲店）	○	83.6%
☆(株)イズミ（ゆめタウン出雲、ゆめタウン斐川、イズミ神西店）	○	79.4%
☆(株)ウシオ（グッディー医大通店、上成店、北部店、平田店、斐川店）	○	82.2%
☆(株)小田商店（おだ出雲店）	○	89.0%
（株）小田商店（おだ斐川店）	×	調査なし
（株）サンアイ（スーパーマーケットサンアイ斐川店）	○	73.4%
☆ＪＡいずも（ラビタ本店、きた、みなみ、はまやま、平田、佐田、多伎、湖陵、大社の各支店）	○	89.2%
（協）莊原ショッピングセンター（アイ）	○	75.0%
（協）大社ショッピングセンター（エル）	○	83.0%
☆(株)フーズマーケットホック（ホック塩冶店、平田店）	○	85.7%
（株）マルマン（マルマン大社店）	○	81.2%
（株）丸合（丸合平田店）	×	42.6%
（株）トライアルカンパニー（トライアル出雲店）	×	調査なし

この取組状況一覧は、「出雲市レジ袋削減の推進に関する条例」第8条に基づく公表です。

表中の☆印の6事業者の皆様には、レジ袋の収益金の一部を出雲市環境保全連合会にご寄附いただきました。

※1 特別事業者とは、市内に1,000㎡以上の店舗面積を有し、かつ、食品衛生法第52条第1項の許可を受けた小売業者をいいます。

※2 斐川地域内の店舗のマイバッグ持参率は、平成24年8月1日以降の数値です。

○ JA 斐川町グリーンセンターもレジ袋削減の取組を行っています。

上の表以外で、協定に基づきレジ袋無料配布中止に取り組んでいる事業者のマイバッグ平均持参率は、次のとおりでした。

☆社会福祉法人親和会 ふたば（市役所売店）：98.0%

☆(有)藤増ストア（藤増ストア知井宮店、大社店、古志店）：88.3%

以上の2事業者も出雲市環境保全連合会にご寄附いただきました。